

アフガニスタンを知って、 そして忘れないで！

6月6日(火) 姫路南高等学校で国際理解出前講座を実施し、2年生120名が参加しました。

講師は、アフガニスタンと日本を何度も往復し、義肢を届ける活動を長年続けている春木信韻さんです。

1979年ソビエト社会主義共和国連邦がアフガニスタンに侵攻し、90年代には激しい内戦があったため、その間に埋められた地雷や不発弾がたくさんあります。地雷やロケット弾で被害を受け、義足や装具等を必要とする人が約80万人もいると言われています。



春木さんはカンボジアでの地雷撤去活動の経験を活かし、アフガニスタンでの支援を行っています。義肢の製作も独学で始めたそうです。

地雷は安価で大量生産でき、設置も簡単なので、現在もなお、世界各国で兵器として使われています。小さな子ほど被害が甚大で、また、地雷は誰かが踏むまで地中に残るため、戦争や内戦が終わった後でも、なお市民に被害が出ています。

市民に被害が出ています。

被害に遭った人をより多く救うため、最近では、3Dプリンターを使ってなるべく安く義肢を作るよう開発に取り組んでいるそうです。講座では、実際に生徒が義手の操作を試してみました。

地雷の問題は、アフガニスタンをはじめ、世界各国で今なお続いています。今回の講座が、生徒たちが世界の平和について考える機会になることを願っています。